

2021（令和3）年度関西保育福祉専門学校

第1回学校関係者評価委員会報告

本校の学校関係者評価委員会設置要綱に基づき設置した学校関係者評価委員会において、第1回学校関係者評価委員会を開催いたしましたので、概要をお知らせいたします。

1 開催期日 令和3年10月15日（金）15:00～17:00

2 開催場所 関西保育福祉専門学校校長室

3 出席者

■ 学校関係者評価委員

NO	委員名	所属等	出欠
1	長部俊弘 委員	社会福祉法人長陽会 ニコニコ桜保育園 理事長兼園長	出席
2	田淵勝彦 委員	社会福祉法人みおつくし福祉会 救護施設 淀川寮 施設長	出席
3	山下知一 委員	社会福祉法人 宝塚さざんか福祉会 宝塚さざんかの家 所長	出席
4	松本陽介 委員	学校法人阪急学園 副理事長 いるか幼稚園 園長	出席
5	板羽茂雄 委員	兵庫県立尼崎高等学校 校長	欠席
6	丸山和幸 委員	社会福祉法人 三田谷治療教育院 芦屋翠ホーム 施設長	出席
7	橋本由香利委員	保護者（保育科1年）	出席

■ 学校教職員

NO	名前	所属等	出欠
1	本田 あけみ	校長	出席
2	細川 明子	教頭	出席
3	竹島 琢夫	事務局長	出席
4	藤田 千波	保育科学科長、就職委員長	出席
5	尾崎 朋子	介護福祉科学科長	出席
6	藤井 和子	教務委員長・学生指導委員長	出席
7	吉田 しのぶ	入試委員長	出席

4 概要

(1) 校長挨拶

(2) 委員長の選出

委員長に山下 知一 委員が選出された。

(3) 報告

報告事項1 「2020（令和2）年度関西保育福祉専門学校自己評価報告書」について

■ 山下委員長から、自己評価「適切」と評価をうける

報告事項2 介護福祉科募集停止について

■ 学校から、資料に基づき説明

報告事項3 学校の現状について

■ 学校から、資料に基づき説明

(4) 協議

(1) 2021年度の取り組みについて

①学校経営重点目標並びに事業計画

■ 学校から、資料に基づき説明

- ・募集状況 定員の確保——8割に達していない
- ・中途退学者の低減——全教職員で学生の悩みに寄り添える体制づくり
- ・教育の質の向上を図るとして、学習支援アプリ「ロイロノー・スクール」の導入・活用
- ・iPadを活用（保育科の学生は購入）した「分かる授業」の展開
- ・実習先で「何を学ぶのか」ベンチマークの評価内容の理解を含め「何のために」そうするのかの意識づけと振り返りの徹底
- ・自己評価と他者評価を比較検討させ、自己分析につなげる

□ 委員の意見

- ・退学者については金銭的なことが理由でないということではあるが、特に一人暮らしの学生については担任だけが関わるというのではなく、全職員で関わってほしい。相性のこともあるし、複数の人に関わってもらえると安心感が増すのではないか。
- ・入学生の状況においては対象年齢の総数が減少しているので、保育の魅力を発信していく必要がある
- ・退学者を出さないためにも、学習意欲への工夫も必要である

②学校における新型コロナウイルス感染症対応

■ 学校から、資料に基づき説明

- ・2021年度の新型コロナウイルス感染の状況、感染者への対応、学校における感染対策の取組、コロナ禍における生活状況調査、等を報告
- ・感染予防フローチャート作成について説明

□ 委員の意見

- ・施設の種類にもよるが、入所者がコロナに関しての自覚が持てない状況もあるので、職員が絶えず巡回をして感染防止に努めている。学校でも、取組を継続して行うしかない。
- ・利用者の特性として、マスク着用できないケースがあるため、実習生などの受け入れ制限をせざるを得ない。
- ・将来、対人援助職に就くことを考え合わせると、オンライン授業のみでは、人間関係を深める機会が無いなど、課題が生じてくる。
- ・フォーマルだけでなく、インフォーマルでのコミュニケーションの場がなくなる影響は大きい。制限ばかりで、楽しさが無くなってきた。

- ・直接話し合う中で人間関係が築かれ、深まっていくが、行事などが中止になり、その機会が無くなっている。また、行事が無くなり、お互いの人間性などについて気づきにくくなっている。行事を通して、お互い協力してやっていこうとし、職員同士が分かり合えてくる。触れ合っていくことが大切。「来て楽しいところ」になることが大切と考える。
- ・私立幼稚園協会でも、実習受け入れに当たってPCR検査を強要してもよいのかと問題になった。実習前2週間の検温など健康調査を実施することで対応している。どうしても実習の受け入れ先がない場合は協会に言えば、実習先を紹介してくれるので尋ねてみていいのではないかと。
- ・現場においても対人援助職の現場なので、オンラインが苦手な職員もいる。パソコンなど機器の扱い方もその人の特性に合わせていくことが必要である。
- ・iPad使用のオンライン授業は、「分かりやすい」「自分ひとりの世界で学べる」と話しており、それなりの効果があつて良かったと感じている。
- ・対面授業開始当初は、落ち着かない様子の時もあったが、慣れてきて少し落ち着いてきた。先生方に見守っていただければ親として安心である。

③保育科の取組

■ 学校からの説明

- ・今年度前期では、オンライン授業に際しては事前に授業資料を配付し、授業を受けやすくする配慮を実施した。
- ・一年生においてはタブレットを所有させICT教育を導入している。
- ・実習の実施については、コロナ感染症の影響で、施設での受け入れが厳しくなっており、計画が変更される事態が生じている。特に、2年生では、後期授業が開始されるも、1週間～2週間授業を休んで、実習に行かざるを得ない状況が発生した。学生の学びを保障するため、その間の授業を録画し、提供した。
- ・コロナの終息が見込めない現状に於いて校内実習をすることも考えられるので、そのための環境として、保育実習室の充実を計画し、2022年度に向けて予算を計上し、準備を進めている。

④介護福祉科の取組

■ 学校からの説明

- ・前期に於いて、対面授業とオンライン授業を併用して授業を実施した。
- ・緊急事態宣言の発令により、外部講師を招いての授業が実施できず、後期に振り替えた。
- ・演習授業では密にならないように2つの教室を使用し授業を行った。
- ・1年生22名中16名が外国人留学生で、就職先が確保できているので、実習指導については就職先と協働して生活指導・支援を実施している。
- ・校内実習の実施については、科目連携を図りながら、実践的な校内実習となるよう、準備を進めている。

□ 委員からの意見

- ・兵庫県での養成校の状況は、どうか。
 - 県内は、本校の他にも、1校募集停止であり、定員確保は、非常に厳しい状況である。

5 事務連絡

- 第2回の会議は、来年の2月末に予定しており、学校自己評価報告書がまとまったら開催をお願いする。